

## II 大学の動き

# 研究活動

### 1998年全教官論文リスト

インパクトファクター付き英文雑誌に掲載された1年間の論文を重複なく掲載。論文数276篇、インパクトファクター計655点、一人あたり約1篇/年の生産率、1篇あたりインパクトファクター平均2.4、などの分析結果が得られた。

### 分野別評価

▼ 論文数、インパクトファクターとも ▼

**1位 神経科学**    **2位 心臓血管系**

この両分野に関連した研究が活発であることを示している。

この他に、相対的にインパクトファクターの高い雑誌に掲載された研究分野として、放射線、核医学、血液学などがある。

### 基礎・臨床間共同研究の比率

基礎・臨床の共同研究による成果は全体の6分の1を占めており、学内共同研究が活発に行われていることを反映している。

### 教官一人あたりのランキング

科研費  
申請件数  
**5位**

科研費  
採択件数  
**15位**

科研費  
資金導入  
**8位**

### 過去5年間の研究実績に関する分析

基礎学（いわゆる教養課程）・基礎医学・臨床医学の各課程についてみると、論文の生産率はほぼ等しく、教官1人あたり年間1編以上をあげている。国際共同研究は基礎学および分子神経科学研究センターで活発であり、基礎医学が続く。臨床医学の場合、診療活動のため国際共同研究はやや少ないが、その研究の質は論文の被引用回数からみても著明に高いといえる。

### 大学院研究系別による分析

担当教官の数

**1位 生体代謝調節系**    **2位 生体情報制御系**

論文生産率から見ると生体情報制御系が勝っており、情報制御の研究分野が世界的潮流となっている現実を反映したものと云える。研究への時間配分は5つの研究系に共通して30～50%と相対的に低く、今後の検討課題となろう。

### 過去5年間における科研費取得状況

採択1件あたり500万円を越える43課題のうち基盤研究(A)は7件、残りはほぼ基盤研究(B)である。このうち1千万円を越える研究課題は11件でほぼ4分の1である。最先端研究を遂行するためには、高額研究費をさらに伸ばす努力が必要である。

### 研究業績集追加資料 (1999年版 in press を含む)

「インパクトファクター順リスト」上位25論文 (1998年 SCI)

雑誌名	IF	雑誌名	IF	雑誌名	IF
1.Nature Med	27.930	9.Diabetes	8.459	17.J Am Coll Cardiol	7.282
2.Faseb J	13.861	9.Diabetes	8.459	20.J Biol Chem	7.199
2.Faseb J	13.861	9.Diabetes	8.459	20.J Biol Chem	7.199
4.Am J Hum Genet	10.869	13.J Neurosci	8.403	20.J Biol Chem	7.199
5.Gastroenterology	10.330	14.Blood	8.372	20.J Biol Chem	7.199
6.P Natl Acad Sci USA	9.821	15.Cancer Res	8.370	24.J Immunol	7.166
7.Circulation	9.173	16.Structure	7.850	25.J Am Soc Nephrol	6.361
7.Circulation	9.173	17.J Am Coll Cardiol	7.282		
9.Diabetes	8.459	17.J Am Coll Cardiol	7.282		